

# 全体構想編

# 全体構想編

## 1 都市づくりの目標

---

### 1. 都市づくりに向けた基本的な考え方

下田市は、天城山系の南端から太平洋に至る豊かな自然や歴史、文化に恵まれた都市である。これらの恵みを受け、活かしながら下田のまちは歩んできた。

そのようななか、地震津波の被害を予測し、津波の浸水被害区域を想定した「静岡県第4次地震被害想定」が公表された。人命を第一に守るための備えを行うとともに、今のまちづくりにも一層力を注ぎ、災害が起きても、住み続けたいまち“しもだ”となるような都市づくりが重要となってきた。

また、幕末、「第1の黒船」である米国ペリー提督率いる黒船の来航。1961年（昭和36年）「第2の黒船」である伊豆急行の開通。そして「第3の黒船」として伊豆縦貫自動車道という新たな交通軸の整備が進んでいる。この「第3の黒船」を好機ととらえ、予想される大規模地震や津波等への対応、今のまちづくりに活かすための方策が必要となっている。

そのなかで下田の自然・歴史・文化が観光資源としてだけでなく、暮らす人にとっても身近に親しめる対象となるような地域づくりを行い、下田で暮らす人と来訪者との交流によりにぎわいあるまちとなるような都市づくりを目指していく。

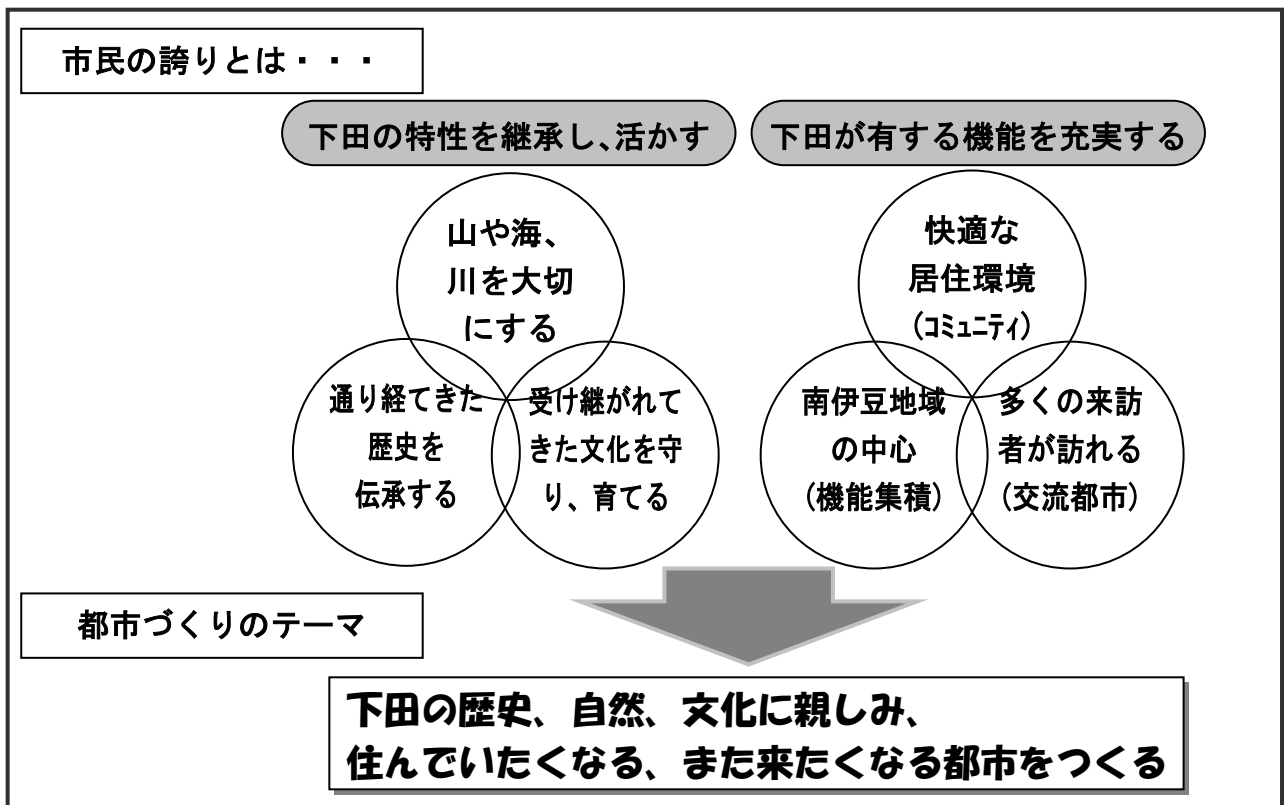
第4次下田市総合計画では、まちづくりの基本理念を「下田を愛する、市民を始めとする幅広い人の参加により、本市の持つ自然や歴史、文化を活用し、市民一人ひとりが誇りを持って暮らすことのできるまちづくり」として設定している。

本計画においては、下田市の都市づくりの課題等を踏まえ、まちづくりの基本理念に即し、『市民一人ひとりが誇りを持てる都市づくり』を都市づくりに向けた基本的な考え方として設定する。

## 2. 都市づくりのテーマ

都市づくりに向けた考え方にある“市民の誇り”を醸成していくため、これからの都市づくりにおいては、下田の自然や歴史、文化を継承し、親しむとともに、下田が有している交流都市・南伊豆地域の中心都市、快適な都市としての機能を充実していくことが大切である。

そこで、都市づくりのテーマを「下田の歴史、自然、文化に親しみ、住んでいなくなる、また来たくなる都市をつくる」と設定し、都市づくりを進めるものとする。



### 3. 都市づくりの基本目標

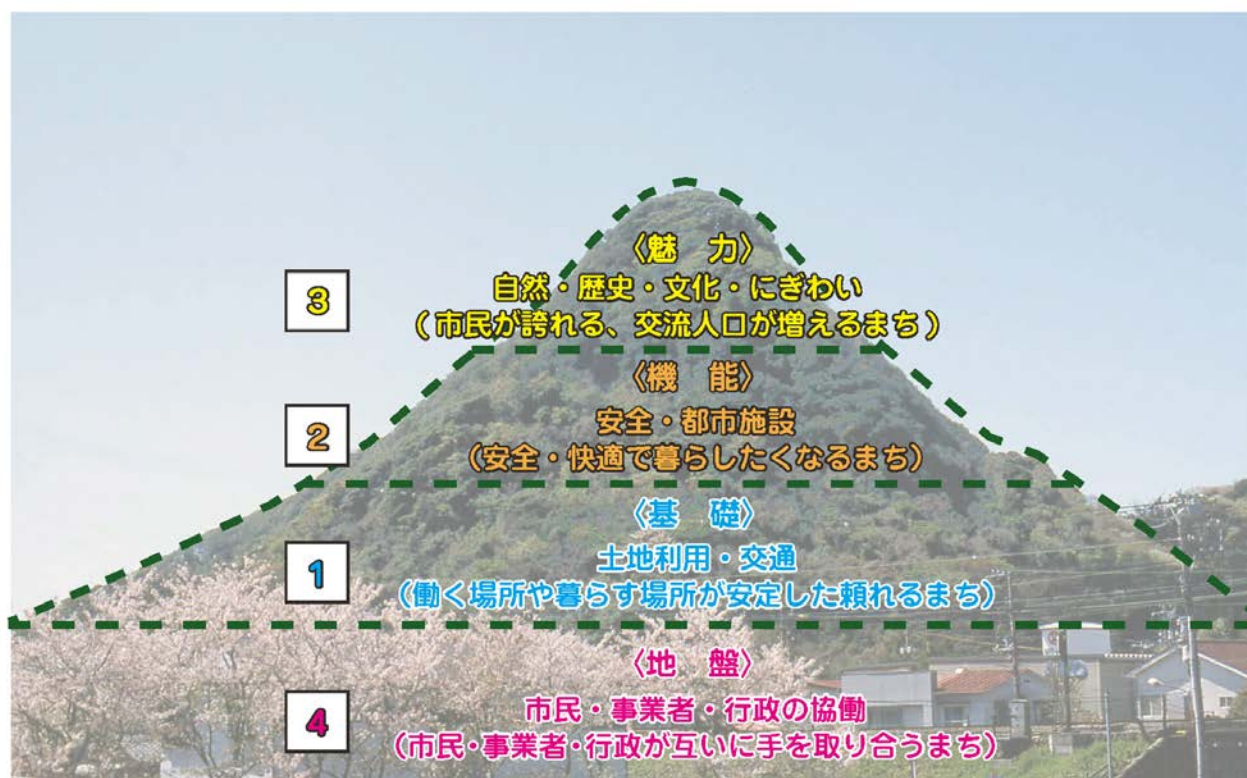
#### 1) 都市の基本構成

将来の下田市において、前項に示したテーマを実現するため、以下の目標をたてて将来の都市構成を、「基礎」・「機能」・「魅力」とそれを支える「地盤」と想定し、それぞれの項目について、目標を設定することとした。

1. 「基礎」は、都市の環境や活動を支えるものであり、都市における土地利用・交通が対応する。
2. 「機能」は、「基礎」の上に構築される、暮らしを支えるうえで都市が備えているべきものを意味し、安全や都市施設が該当する。
3. 「魅力」は、住んでよかった・来てよかったと思えるまちとするための要素、即ち自然・歴史・文化・にぎわいを取り上げる。
4. 「地盤」は、都市づくりを支えるための母体となる市民・事業者・行政の係わりや体制のありかたを示す。

それぞれの項目における目標は下図に示すとおりである。

#### ■都市の基本構成図



## 2) 都市づくりの基本目標

都市づくりの基本理念、都市づくりのテーマを踏まえ、都市の基本構成に基づき、都市づくりを進める上での基本目標を以下のように定める。

### 1 働く場所や暮らす場所が安定した頼れるまち 「基礎」

下田という地域に魅力を感じたとき、下田で働き、下田で暮らすことができるための環境があり、休日は、人生を楽しむことができる環境がある、一生を通して安定して生活できるような土地利用計画をつくる。また、公共交通の充実などにより、高齢者が地域の一員として自立して暮らすことができる環境を整備する。そして、進学などで一時的に市外に出ても戻りたくなる、下田に住んでよかったと思われるような、頼れる都市づくりを行う。

### 2 安全・快適で暮らしたくなるまち 「機能」

子供や若者、高齢者など、性別や国籍を問わず様々な人が、日々の危険や災害におびえることなく、心身ともに安全だと感じ、快適で暮らしたくなる、暮らし続けたいと思う環境を創出する。

### 3 市民が誇れる、交流人口が増えるまち 「魅力」

国際的な都市間競争に勝ち抜くためにも、各地域の特色ある環境や、身近にある大自然、壮大な歴史・文化が感じられるまちづくりに取り組み、若者から高齢者まで、誰もが誇れる、世界中から来訪者が訪れるまちを創出する。

### 4 市民・事業者・行政が互いに手を取り合うまち 「地盤」

市民・事業者・行政が、共通した都市の将来像を描きながらまちづくりを進め、互いを補い、協力しながら下田のまちを作りあげていく。

### 3) 将来フレーム

#### (1) 定住人口

本市の人口は、少子高齢化に加え、市内への転入者より市外への転出者が多いことから、加速して人口減少が進んでいる。直近5年の人口動向並びに出生等を基準とした「コーホート法」等に基づく推計によると平成42年の定住人口は18,500人となり、放置すると人口はさらに減少してしまう。

日本の人口が減少しているなかで、人口を右肩上がりに増加させることは難しい。

本計画では、土地利用計画を中心とした施策を実施することにより人口減少に歯止めをかけ、推計よりわずかでも人口を増やし、住み続けたい、訪れたい下田を目指す。

伊豆縦貫自動車道を活用した通勤圏の拡充、サテライトオフィスや商業施設等の誘致に伴う新規雇用の増加により、一時的に進学等で下田を出た若者が、卒業後下田へ戻ってくることで転出者の減少を図る。また、田舎暮らしをしたい移住者等を空き家等で受け入れることにより、家族ぐるみでの流入を増やす。

上記施策等の実施、平成40年(2028年)に伊豆縦貫自動車道河津下田道路1期が完成する想定のもと、平成42年(2030年)の人口を次のように設定する。

平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)	平成42年 (2030年)
29,103人	27,798人	26,557人	25,013人	23,000人	20,000人

※平成7年、12年、17年、22年は国勢調査

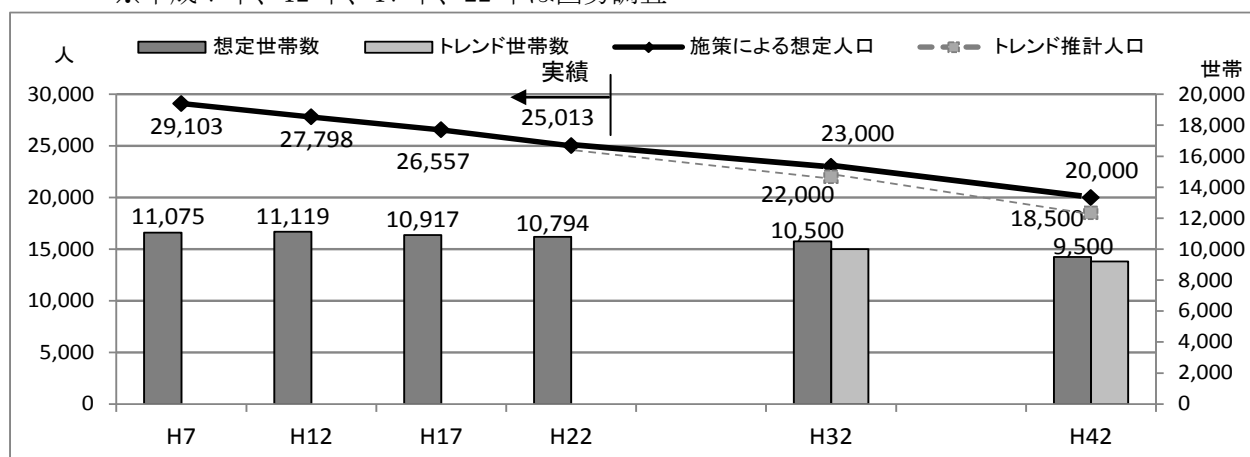
※本計画に基づく推計値であり、他の計画における推計値を制限するものではない。

#### (2) 世帯数

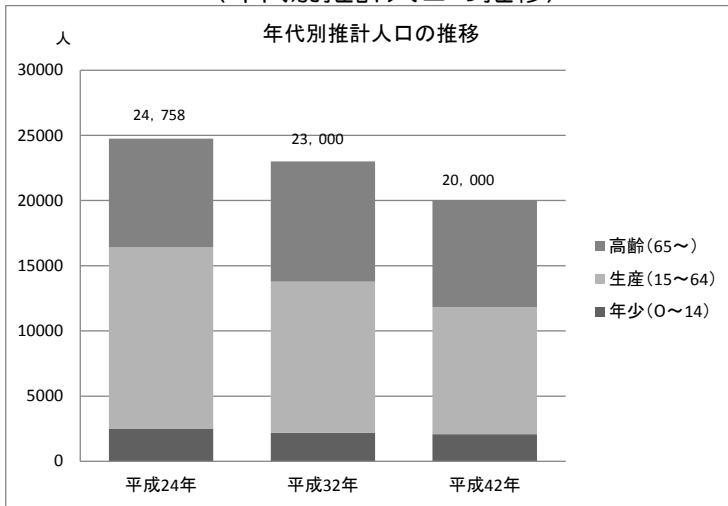
下田市の世帯人員は、高齢化や少子化、転出により減少し、平成22年で2.32人/世帯となっている。今後も、同様の傾向が続くことが想定されるが、各種施策の実施により徐々に緩やかになると想定し、次のように設定する。

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)	平成42年 (2030年)
世帯数(世帯)	11,075	11,119	10,917	10,794	10,500	9,500
世帯人員(人/世帯)	2.63	2.50	2.43	2.32	2.19	2.11

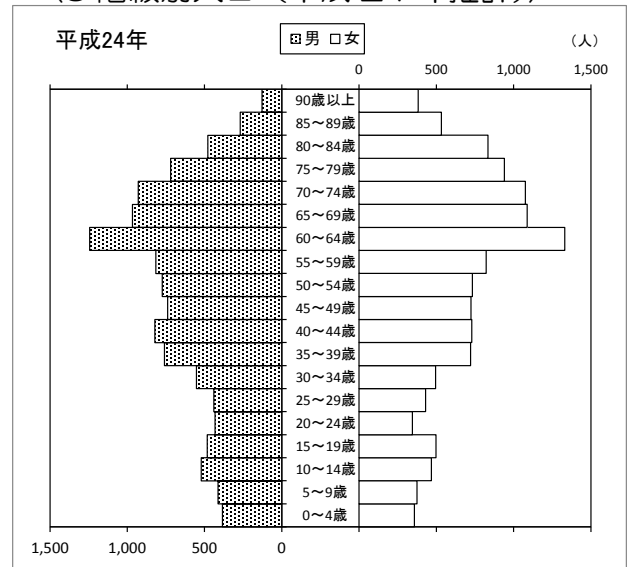
※平成7年、12年、17年、22年は国勢調査



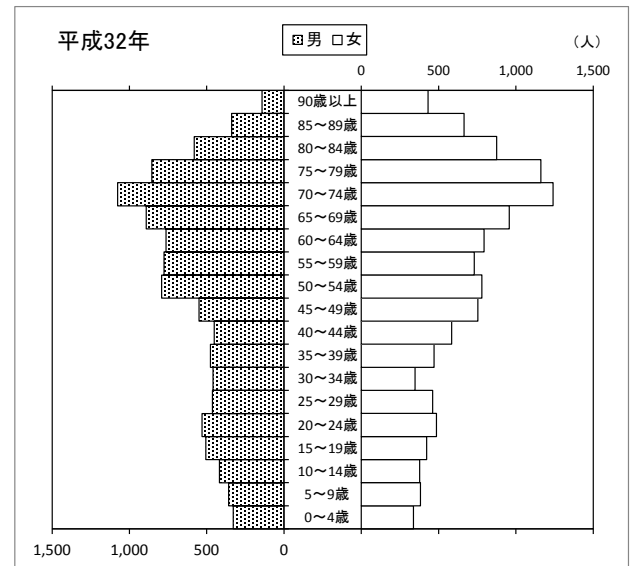
### 〈年代別推計人口の推移〉



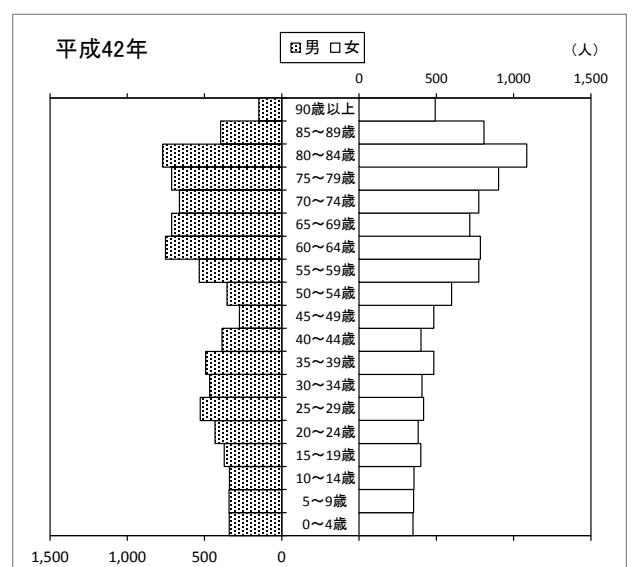
### 〈5階級別人口（平成24年推計）〉



### 〈5階級別人口（平成32年推計）〉



### 〈5階級別人口（平成42年推計）〉



## 4. 目指す都市の将来の姿

### 1) 将来の都市構造

下田市の目指す将来の都市構造は、各地域の特性を踏まえた土地利用を進めるため、人々が集い、活動する場所の中心となる都市拠点として、下田中心市街地、武ガ浜臨海部を位置づける。

核となる集落を地域拠点、自然環境が豊かな地域を「特出すべき自然環境拠点」として位置づけ、各拠点の個性を引き出す都市づくりを展開する。

また、伊豆縦貫自動車道をはじめとする道路網や海上交通の機能を充実することにより、拠点間、拠点と自然環境・農業地、拠点と他都市との有機的な結びつきを強め、下田市の持つ特徴を最大限に活かした多極ネットワーク型コンパクトシティを形成する。

#### <土地利用ゾーン>

各地域の特性を踏まえ、市域を7つのゾーンに区分する。

- (1) **中心市街地**…市民文化会館周辺、伊豆急下田駅周辺、武ガ浜
- (2) **周辺市街地**…蓮台寺、柿崎、六丁目周辺の市街地
- (3) **集落居住地**
  - 大規模集落…吉佐美、白浜、大賀茂、箕作周辺の比較的大規模な集落
  - 主な集落地…外浦、須崎、田牛、大沢、須原、加増野
- (4) **農業地**
  - 集团的農地…稲梓地区及び朝日地区
  - 緩斜面や丘陵地の果樹園
- (5) **海岸線・背後緑地**…富士箱根伊豆国立公園を中心とする海岸線と背後の緑
- (6) **市街地を囲む緑地**…寝姿山、双乳山、下田富士等の市街地周辺の緑（風致的緑地）
- (7) **森林・丘陵地**…稲梓、稲生沢、白浜地区の一带に広がる森林や須崎、田牛地区等に広がる丘陵地

#### <拠点>

人々が集い、様々な活動を行う場所を拠点として位置づける。

- (1) **都市拠点**…行政、商業業務、文化、交流等の拠点  
⇒下田中心市街地、臨海部の新拠点市街地
- (2) **地域拠点**…地域住民の生活の拠点、地域活動による交流の拠点  
⇒蓮台寺、白浜、吉佐美、大賀茂、柿崎、須崎、稲梓（箕作周辺）
- (3) **特出すべき自然環境拠点**…自然環境豊かな拠点  
⇒下田港周辺、蓮台寺温泉周辺、白浜海岸周辺、吉佐美海岸周辺

#### <広域連携軸>

他都市との連携を強化するための軸を広域連携軸として位置づけ、高規格幹線道路網や航路を配置する。

#### <都市連携軸>

周辺市町や各拠点間の連携を強化するための軸を都市連携軸として位置づけ、幹線道路網を配置する。



# 下田の将来都市構造図

